

『子どもを立ち直らせる』

愛の法則』

『子どもを立ち直らせる愛の法則』
(2008年 黎明書房)の著者、また愛の川カウんセリグセンター所長である磯部陽子先生(東京都在住)にお話をうかがいました。

先生の著書には、子どもの不登校や非行問題で悩む親の相談に磯部さんの確かなアドバイスをして解決に導く様子が描かれています。

磯部さんは、東京、名古屋などで定期的に子育て講演会を開催しています。

「最初に、信仰を持たれたきっかけを教えてください。」

磯部 幼い時から教会学校に姉妹3人で行っていました。高校1年の秋に、Hi・BAのクラーク宣教師と出会い、イエス様を求めるようになりました。

大学生時代は早稲田K・G・Kに所属しており、20歳で受洗しました。

「ご主人は医師とつかがいました。」
磯部 1969年に阿佐ヶ谷にある久遠キリスト教会の丹羽銀之(とねのぎん)牧師の紹介で、磯部秀隆と結婚しました。夫は東京都東村山市に、内科と小児科の「愛の泉診療所」を開業しました。

10年後、診療所に隣接して愛の川キリ

スト教会を建てて牧師となり、共に独立伝道を始めました。私は、診療所、教会、家庭、年子の4人の子育てと、忙しい日々を送りました。

2002年の夫の召天後は、日曜日にメッセージをしています。

●伊藤重平先生と出会う

「ゆるす愛の奇跡」をお書きになった伊藤重平先生にカウんセリグを学ばれたとうかがいましたが、その経緯を教えてください。」

磯部 私は子どもの教育にはかなり熱心でしたので、子育ての講演を聞きに行ったり、本を読んだりしてやってみました。でも、どれも行き詰まって、長く続けられませんでした。こういう子になってほしいという理想があっても、それに到達する道が分からなかったのです。結局、自分の親からされたように、試行錯誤して育てるほかありませんでした。

ある日、誘われて、伊藤重平先生のセミナーに出かけました。忘れもしない1988年11月24日です。その日から私の生活は180度変わりました。そこで話されたのは聖書のエペソ6章4節です。内容を要約してみます。

「父たちよ、あなたがたも子どもをおこらせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。」

これは、聖書で子育てを体系的に述べているところです。子どもは勝手に怒るのではなく、怒らせる環境があるから怒るのです。だから、イエス様の教育と訓戒に学びなさい。イエス様の教育とは、「わたしはあなた方の足を洗ったのですから、あなたがたも互いに足を洗いなさい」また「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」と、自ら私たちを直接愛し、模範を見せてくださいました。

愛とは、親切と寛容(第一コリント13章4節)です。私たちもイエス様のように、親切の愛と寛容の愛をもって子どもに実際に行うことが教育です。

訓戒とは、子どもが悪い事をしたときや、失敗したときのやり方です。ヨハネによる福音書の8章の罪を犯した姦淫の女に、イエス様は叱るのではなく、「人間は誰でも弱い者で、罪を犯さない者はない。罪を犯したくなくても犯してしまうものだ」という理由によって赦してから、「もうしないように」と教えられました。これは、子どもを含めて人への訓戒の模範です。

このように親たちも、子どもが失敗したときも悪い事をしたときも、イエス様がなさったように、理由を伝えてから教えます。そうすれば、

子どもは怒ることなく立派に育っていきます。

その時の衝撃は、今も忘れることができません。なぜなら、私は子どもが親から見てよくないことをしたとき、その行動を注意したり、叱ったりして直そうとしていました。しかし、やればやるほど、子どもとの距離ができ、また親である私も自己嫌悪におちいったからです。

●私も更正させていただける

「それで、どうなされたのですか。」

磯部 私はとっさに、「16年間やってきた子育てが違っていた」「子どもたちの人生を狂わしてしまった」と、すまない気持ちがいっぱいでした。

いてもたってもいられず、数日後、先生の名古屋のお宅に、カウんセリグをしていただくために飛んでいきました。先生は元家庭裁判所で調停委員をして、非行の少年少女を更生に力を注いでこられた方なので、この愚かな母親も更生させていただけると確信したからです。

先生は退職後、子育ての問題、また家庭における子どもの愛し方を指導して全国どこへでも行かれました。

私は、子どもを愛する「愛」を一から学び直しました。(以下略)